

ナツツバキ・・・



鬱陶しい梅雨の季節を迎えました。梅雨の雨に似合う花というと、先号でご紹介したアジサイがまずあげられますが、このナツツバキも梅雨の時期に咲く花の一つです。5号棟の東側に、かなり大きく育っています。

すっきりした白色がきれいな花で、5枚の花びらの縁には、こまかいギザギザがあります。この花は、朝に開花し、夕方には落花する一日花で、ツバキ同様、花の形そのまま木の下に落ちてしまいます。

ところで、ナツツバキには、沙羅双樹、シャラノキ等の別名があります。

自分の寿命を悟った釈尊が、「形あるものは必ずこわれ、生あるものは死ななければならない」と最後の説法をして沙羅双樹の下で涅槃に入ったことは有名な説話です。このため、ナツツバキは良く寺の敷地内にも沙羅双樹として植えられています。しかし、残念ながら、インド原産の沙羅双樹とは、全くの別種です。

ただ、平家物語の始まり、「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり、沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理を現す」と記されている沙羅双樹は、このナツツバキをイメージして謡われているといいでしょう。